

商機を逃すな! チャンスは「中国」にあり

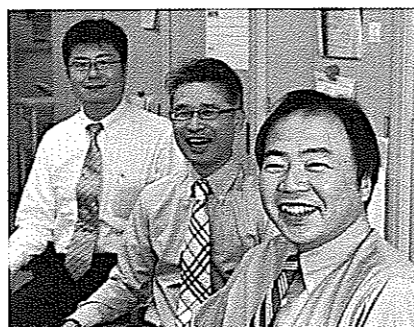
経営支援部 取引支援課

急速に経済成長を遂げ、今や世界最大のマーケットとなった中国。対して疲弊する日本の産業。再興し活性化するため中国の市場はもちろん、製造拠点を有する日系企業の在り方、中国企業の快進撃、そのどれもがひとつの栄養素となり得るかもしれない。そう考え財団では、県内でがんばる中小企業の方に今の中国に触れていただくため2つのイベントに参加し1つの商談会を開催しました。各イベントに参加した企業の声を取材しました。

★ 中国国際工業博覧会 2010

岡山県 産業労働部 産業企画課 経済国際化推進班

総括主幹 庄 英利さん(右)/主任 山辺 典生さん(中央:本文寄稿)/主任 岡田 裕樹さん(左)



★: 中国最大の工業見本市

「中国国際工業博覧会 2010」出展

「中国国際工業博覧会」の「工業自動化展」と「環境技術・設備展」に岡山県、(財)岡山県産業振興財団、(社)岡山県国際経済交流協会の三者で岡山県ブースを設け、県内の企業8社が出展しました。その概要を報告します。

★: 中国国際工業博覧会とは

毎年上海市で開催される中国最大の工業見本市で、今年で12回を数えます。会期は11月9日(火)から13日(土)の5日間。出展は1,653社(うち海外企業が約3分の1)計5,057ブース。約10万㎡という広大な会場に9ホールの展示施設があるため、出展者も来場者も相当な体力を求められます。また、ブースの装飾は派手なものが散見され、展示物は見上げるほど高く、少なからず圧倒されます。

★: 出展企業

「工業自動化展」には制御機器や自動化設備、省エネ・省力化機器、精密板金加工などの企業5社が、「環境技術・設備展」にはプラスチックマグネットや省エネマフラー、弱酸性次亜塩素酸水生成装置製造などの企業3社が出展しました。

中国に拠点が無く、「これから中国ビジネスに着手する」出展企業の参加がある一方で、十数年も前から製造拠点を運営している企業もあり、各社の参加目的はさまざまですが、概観すると出展の狙いは以下のいずれかだと感じました。

Point

- ① 具体的な商談により、販路拡大
- ② 製品や技術を情報発信し、今後の営業先を確保
- ③ パートナー企業を探索し、中国ビジネス展開・拡大への基盤強化(長期的な視点での販路拡大)
- ④ 現地での反応を収集し、中国ビジネス展開への事前準備、戦略構築

★: いざ出展!

開会日前日の夜にやっと設営完了し、いざ出展!

事前に日系企業やローカル企業にPRパンフレットを多数発送していましたが、開会当日の朝は客足が伸びない状態。しかし、お昼前から来場者が増え始め、特に「環境技術・設備展」ではJETROが日本パビリオンを設け、「日本」をクラスターとした強力なアピールが効いたのか、イメージしていた会場風景に。

博覧会全体では連日約2万人、5日間通算で約10万人、74カ国からビジネス来場者が参加。「工業自動化展」岡山県ブースに設けたPRコーナーには約1,200人が来場。ロシアやインド、イスラエルの方などが訪れ、機械の仕

様や自社の基準に合致したものが作れるかなどの情報を収集していました。

もちろん、来場者の多くは中国の方です。情報収集を目的とし、多くを語らず尋ねず、そっと資料を持って帰る方も多い一方、「顧客の要望に応えられる機械なら高くても買う。すぐ会社に来て、社長に会って欲しい。」と急ぎよ企業訪問したり、展示製品に強い関心を持ち、夜宿泊先に足を運び詳しい情報交換をするなど、来場者のスタンスや温度差もさまざまでした。また、自社にない技術や中国市場に出回っていない製品を取り込もうと、代理店やパートナー企業を希望される方も多く見られました。

★: 出展を振り返って

出展企業からは「中国の発展がよく分かり、今後のアプローチを考えるうえで参考になった」「具体的な商談が多く、将来的に成果を期待している」などの声がありました。展示会で情報を発信し(種をまき)、その後営業し(育て)、そして成約に結びつける(収穫する)までの時間軸の長さを改めて認識させられました。

また9ホールの会場全体の中で、「環境技術・設備展」のJETRO日本パビリオンが一番のにぎわいを見せたものと思われます。これはまだ「日本」がブランド力を誇れるということでしょうか。このブランド力をいかに活用するかが、

今後の課題だと考えています。

最後に、海外ビジネスを展開するうえで、資金を土台とし、技術や製品、サービスの力を縦軸、顧客を横軸とすれば、現地で抱える人材やパートナーが垂直軸、この3軸の伸びが海外ビジネスの成功や成長に作用し、特に中国では人材やパートナーの軸の力が他国より大きく影響すると感じました。

もちろんそこには落とし穴も数多くあるかと思いますが、支援機関の協力をいただきながら、出展企業の皆さまのまいった種が十分な栄養を得てすくすくと育ち、中国で大きな花を咲かせ、そして巡り巡って岡山本社にも今以上の花が咲くことを願っております。



★ 出展企業

代表取締役 石本 隆一さん
(株)共和工業所

「凡時徹底」して、ものづくりの機会を探る

戦後、自動車生産用の工作機械の精度修正を主業務として創業した(株)共和工業所。現在は3代目の石本隆一代表取締役が務め、業務を拡張している。合理化・省力化を追求する産業機械の設計製作、特殊鋼材の切断加工、精密部品の機械加工など幅広いニーズに対応できる技術を誇る。

以前の体験を教訓に、業界の枠を超えて広い視野を持ち、提案型の営業で顧客を増やしている。

中国に拠点を持たず、今後も積極的には進出を考えてはいないが、市場として注視していると、展示会に初出展した。そのため単独ではない共同ブースでの参加形態で、十分な情報収集をすることができた。また自分の目で見て、具体的に中国での商売のイメージを掴むことができ、「この国で信頼できるパートナーなしに、ものづくりをすることの大変さを痛感した」と言う。さらに「日本ブランドの信頼性は根強く、価格を譲歩することなく、特殊性

や専門性を持つ機械の市場は、潜在していると

感じた。日系企業には、適正な価格で良いものを求める体質が宿っていることも再認識できた」と続ける。

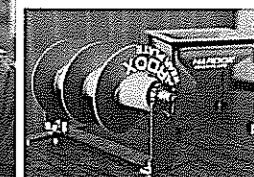
国土が広く、地域により人柄や気質が違うと言われる中国。機会があれば他の都市でも出展をしてみたいと未知の中国に興味を示す。

「こういった場所でも日本語しか話さない日本人は、世界で仕事をしようとするスタンスで負けている。直接思いを伝えたり聞いたりできる手段があって初めて同じ土俵で戦えるのではないかと語学の重要性を繰り返す。

大連の機械設計業者から事業提携希望があり、今後情報交換を進める予定。



展示会に持参したスウェーデン鋼のサンプル。詳しくは38ページをご覧ください



- ① 工業自動化展
- ② 工業自動化展岡山県ブース
- ③ 環境技術・設備展
- ④ 工作機械・金属加工展
巨大な縦旋盤の展示